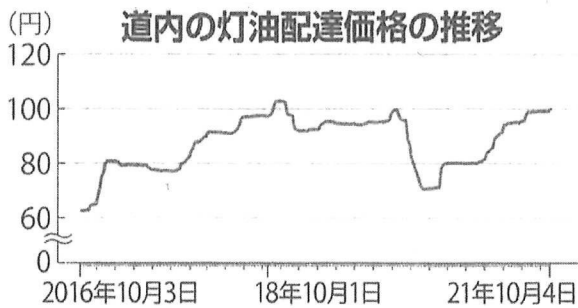


灯油の冬の需要期が近づくと、道内価格が高止まりし、配達価格が1㍗100円に迫っている。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、世界的に経済活動が回復基調に入ったことを受け、原油需要が伸びていることが背景にある。高値傾向は当面続くとみられ、道民生活に影響を与えそうだ。

道内最大の灯油共同購入団体コープさっぽろ（札幌）は1日、冬の定期配達を始めた。価格は全道で最も安い札幌でも1㍗96円と前年同期より19円高く、旭川や帯広、釧路などは97円。最も高い稚内や根室は99円で、灯油配達を手掛けるコープ関連会社のエネコープ（同）は「仕入れ価格が急上昇しており、小売価格に

道内灯油 100円迫る



※1㍗当たりの現金価格(税込み)。資源エネルギー庁の石油製品価格調査を基に作成

転嫁せざるを得ない状況」という。札幌市内の約千軒に配達する札幌河辺石油（同）の河辺善一社長は「1㍗100円を超える局面になるだろう。値上げは心苦しいが、頭を下げてでもお願いするしかない」と話す。

世界経済復調 原油需要が増

経済産業省資源エネルギー庁が公表した4日時点の道内灯油配達価格は、1㍗99円83銭と前年同期を19円67銭上回る。7月以降は98〜99円台で推移しており、100円台に乗れば2018年11月以来となる。

石油情報センターによると、欧州を中心に天然ガスの供給量が不足し、原油が代替燃料となっていることも要因の一つという。米連邦準備制度理事会（FRB）の段階的な量的緩和縮小に伴う円安進行も予想され「先行きは楽観視できない」とする。

道内ではガソリン価格も4日時点で1㍗159円50銭まで高騰しており、家計に厳しい冬となりそうだ。

（田中雅久）